

教職及び
博物館に関する科目

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|------------|----|----|-------|----|---------|
| 09301 | 教育原論 A (a) | 随 | 2 | 2 | 前期 | 林 雅代 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 本講義では、学校教育が社会構造の中で果たす役割がいかなるものかという視点から、教育と社会の関係を概観する。まずはじめに、学校教育の社会的機能についてみたあと、学歴主義の構造、カリキュラムの役割、ジェンダーと教育、教育問題の考え方、といった個別的なテーマについて検討し、最後に教師が学校教育において果たしている役割について言及する。なお、講義内容にかかわる学校教育のタイムリーな話題も適宜取り上げていきたい。

- 【講義計画】
1. 学校の社会的機能
 2. 学歴主義の構造
 3. カリキュラムの役割
 4. ジェンダーと教育
 5. 教育問題の考え方
 6. 教師の役割

【評価方法】 学年末試験及び出席状況によって評価する。

【テキスト】 特に指定しない。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|------------|----|----|-------|----|---------|
| 09302 | 教育原論 A (b) | 随 | 2 | 2 | 後期 | 三上 茂 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 教育とは何か。学校教育の目的、内容、方法、制度等について概観する。

- 【講義計画】
1. 「他の人間による人間の人間化への援助」としての教育
 2. 近代学校制度の歴史的沿革、特質
 3. 学校教育の目的、内容、方法
 4. 教育者

【評価方法】 期末試験と出席状況によって評価する。

【テキスト】 使用しない。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|------------|----|----|-------|----|---------|
| 09303 | 教育原論 A (c) | 随 | 2 | 2 | 前期 | 梅村 敏郎 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 教育の目的に関する哲学的、社会思想的考察や教師及び学校教育に係わる法規の概説を行い、教職に対する使命感、責任感の涵養を図る。

- 【講義計画】 講義は次のような構成になる予定である。
1. 教育原論とは何か。
 2. 人間はなぜ子どもを教育するのか。
 3. 何が教育の目的を規定するのか。
 4. 中等教育を中心とするわが国の近代学校の教育目的。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|------------------|----|----|-----------|----------|------|
| 09305 09306 | 教育原論 B (a)・B (b) | 随 | 2 | 各2 | 後期 前期 | 荻原克巳 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履修 | 重複 履修 | 不可 |

【講義内容】 教授方法、学習指導、生活指導、特別活動、学級経営、教師論など、多くの事例を交えながら、「教育経営・実践」を中心に講義する。

【講義計画】
 ○学習指導（・学力とは何か・教育課程と教科書や教材・学び方を学ばせる・授業技術の要素と授業の構造・学習過程と指導案・集団学習と個別学習の教育的意義・相対評価と絶対評価）
 ○生活指導（・生活指導の意義と内容・生活指導の組織と計画・生活指導の方法・家庭や地域社会や関係機関との連携）
 ○教育の経営（・新しい学校経営論・学校経営の概念・学校経営の三要素・学校経営の基本原則・校長の職務の重点・学校経営の機能・校務分掌・教職員の研修・学校経営と学級・学級経営）
 ○教師（・教育過程と教師・教育における人間関係・理想的教師像と現実的教師像・教職と教養及び身分）

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 教師養成研究会編『教育原理』（学芸図書株式会社）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|--------------|------------|----|----|-----------|----------|------|
| 09307 | 教育原論 B (c) | 随 | 2 | 2 | 後期 | 梅村敏郎 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履修 | 重複 履修 | 不可 |

【講義内容】 教育制度の基本的な構造とその社会的な機能の概略を説明するとともに、学習指導や生徒指導を行っていくうえで実際に必要とされる知識や技能について講義する。

【講義計画】 講義は、先進諸国の学校制度の比較と教育課程の問題を中心とする予定である。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 テキストは使用しない。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|--------------|-----------------|----|----|-----------|----------|------|
| 09311 | 教育実習指導（教育実習を含む） | 随 | 4 | 3 | 通年 集中 | 荻原克巳 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履修 | 重複 履修 | 不可 |

【講義内容】 教育実習にあたり、教育者としての基本的な態度・技能を身につけるための指導である。
 具体的には、実習に対する心構えと、観察・参加・実習を通じての教育理論や実践に関する基礎的能力を養うことを目指す。

【講義計画】
 ○教育実習の意義
 ○教師養成と教育実習
 ○4年次生による教育実習体験談

- 教育実習の心得
- 教育実習の形態（観察・参加・実習）
- 教育実習の内容（学校経営・学校の組織・生徒の理解・教育課程・学習指導・道徳と特別活動・生徒指導と学級経営・学校の施設と環境・教師としての勤務）
- 教育実習の実際（教材研究・授業・学習指導案・授業研究・道徳や特別活動や生活指導の実際）
- 学習の評価
- 本学 OB の現職教員による校種別・教科別実際指導
- 教育実習事後指導（実習体験をふまえ、あらためて「教育」や「教師」について考える。）

【評価方法】 実習校の評価を重視し、出席も配慮して評価する。

【テキスト】 教師養成研究会編『教育実習の研究』（学芸図書株式会社）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|---------------|----|----|-------|----|---------|
| 09321 | 学校教育心理学 A (a) | 随 | 3 | 2 | 前期 | 宮川 充 司 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【副 題】 発達と学習の心理学

【講義内容】 学校教育に関連する事項として重要な人間発達の基礎、学習の過程についての基礎を、学校教育現場の現状や子どもたちの実像と重ね合わせながら、学んでいく。

【講義計画】 次の内容を順次取り上げていく。
 人間の発達とは何か
 人間発達の基礎・遺伝と環境・発達の区分・研究法
 生涯発達の段階として位置づける児童期・青年期
 最近の学校と子どもたち
 学習と学校教育
 学習の基礎・学習意欲・学習指導法

【評価方法】 学期末試験、及びレポートによる。

【テキスト】 宮川充司、坂西友秀、大野木裕明（編）『児童・生徒の発達と学習』（ナカニシヤ出版）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|---------------------|----|----|-------|----------|---------|
| 09322 09326 | 学校教育心理学 A (b)・B (b) | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 石田 裕 久 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 本講義は教員免許状の取得に必要な教職専門科目として開講されるものである。学校教育心理学 A (c) (前期)では、出生から青年期に至る心身の成長と発達を跡づけるとともに、学校教育心理学 B (c) では、「学習」の諸過程について理解を深めることによって、教育指導・方法にかかわるさまざまな問題について理解することを目的とする。

【講義計画】 学校教育心理学 A (c) (前期)では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を知的発達、心理社会的発達、自己意識の発達という3つの側面からたどるとともに、教育（学習の過程）と発達のかかわりについて解説する。また、学校教育心理学 B (c) (後期)では、知能・学力・性格などの理解を踏まえて、教育の方法や技術・評価の在り方についての講義を行なう。

【評価方法】 前期・後期とも定期試験期間中に筆答による論述試験を行なう。また、授業内容に関わるレポート提出を求めることがある。

【テキスト】 神谷育司他（編）「発達と教育の心理学」協同出版

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|--------------|-----|-----|-----|-------|---------|
| 09323 | 学校教育心理学A (c) | 隋 | 3 | 2 | 前期 | 浦上昌則 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 学校教育段階での人間の発達に関する基礎知識を中心に、教育現場とのかかわりあいを踏まえながら講義を進める。また、近年の学校教育の中で起っている諸問題についても積極的に取り入れたい。

【講義計画】 主に、以下のような内容を中心に組み立てる。

- ・発達のとらえ方
- ・遺伝と環境
- ・知能の発達
- ・社会性の発達
- ・性の発達
- ・学級の人間関係
- ・発達と教育

【評価方法】 学期末の試験および講義時間中に指示するレポートによる。

【テキスト】 別途指名する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|--------------|-----|-----|-----|-------|---------|
| 09325 | 学校教育心理学B (a) | 随 | 3 | 2 | 後期 | 宮川充司 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 重複履修 不可 |

【副 題】 教育の方法と技術

【講義内容】 学校教育と授業方法にかかわる基礎的な事項を、最近の学校教育の現状・変化と重ね合わせながら、教育活動の科学的理解と対処法を学んでいく。

【講義計画】 次の内容を順次取り上げていく。
最近の学校教育を巡る変化・学習スペースのオープン化・学習の個別化・学校の情報化
授業のデザインと学習指導
マルチメディアとコンピュータ
教育評価とテスト

【評価方法】 学期末試験、及びレポートによる。

【テキスト】 大野木裕明、森田英嗣、田中博之『教育の方法と技術を探る』（ナカニシヤ出版）

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|--------------|-----|-----|-----|-------|---------|
| 09327 | 学校教育心理学B (c) | 隋 | 3 | 2 | 後期 | 神谷俊次 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科履修 | 重複履修 不可 |

【講義内容】 学校教育と関わりの深い「学習」やその成果をどのように「評価」するのかなどについて理解を深める。

【講義計画】 以下の内容を取り上げる。

- (1)学習の基礎
- (2)情報処理モデル

- (3)知識と理解
- (4)動機づけ、学習意欲
- (5)知能と学力
- (6)学習指導法
- (7)授業設計、授業研究
- (8)教育工学
- (9)教育評価

【評価方法】 レポート及び学期末テストによる。
 レポート課題：新聞から教育に関わる記事を取り上げ、その出来事に対する各自の意見をまとめる(2、3回)。
 筆記試験：講義で取り上げた事柄に関する記述形式の試験を行う。

【テキスト】 別途指名する。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|-----------------|----|----|-------|----------|---------|
| 09331 09332 | 道徳教育の研究 (a)・(b) | 随 | 4 | 各2 | 前期 後期 | 荻原克巳 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 道徳の基本的な問題としての社会化と人格化について種々の側面から検討する。
 また、教育全体の中での道徳教育の意義や使命について論及し、その理解を図る。

【講義計画】 ○学習指導要領の改訂と道徳教育
 ○道徳教育の目標
 ○道徳教育の基本的な在り方
 ○道徳性の発達と道徳教育
 ○道徳の時間の目標
 ○道徳の内容 (内容構成の考え方・内容の取扱い)
 ○内容項目の指導の観点 (自分自身の関すること・他の人とのかかわりに関すること・自然や崇高なものとのかかわりに関すること・集団や社会とのかかわりに関すること)
 ○「道徳の時間」と「全教育活動」における指導
 ○指導案と指導過程の工夫
 ○道徳教育と資料の活用
 ○道徳における評価

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 文部省編『中学校指導書—道徳編—』

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------------|----|----|-------|----|---------|
| 09333 | 道徳教育の研究 (c) | 随 | 4 | 2 | 前期 | 梅村敏郎 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【講義内容】 子どもを「道徳的に善い」人間に育成するために、教師は何をしなければならないか、そこにはどんな問題が含まれるかを考察する。

【講義計画】 講義の構成は次のようなものになる予定である。
 1. 道徳教育とは何か。
 2. 「道徳的に善い」とはどういうことか。
 3. 道徳教育の心理学的側面。
 4. わが国の近代学校の道徳教育。
 5. まとめ

【評価方法】 評価は筆答試験によるが、試験問題は事前に公表する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|-------------|-----|-----|------------|------------|-------|
| 09334 | 道徳教育の研究 (d) | 随 | 4 | 2 | 後期 | 梅村敏郎 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 | 不可 |

【講義内容】 20世紀に入ってからからの道徳教育の理論としては、デュルケームやデューイのものが古典的名声を得ているが、このコースではそれ以後の優れた道徳教育論を取り上げて、それを正確に読むとともに、その解説を試みる。

【講義計画】 この学期には、R. S. Peters, Reason and Habit: The Paradox of Moral Education を取り上げる予定である。

【評価方法】 評価は筆答試験による。

【テキスト】 プリントを配布する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|---------------|-----|-----|------------|------------|-------|
| 09341 09342 | 生徒指導論 (a)・(b) | 随 | 3 | 各2 | 前期 | 荻原克巳 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 | 不可 |

【講義内容】 「社会化」という観点から、児童・生徒の積極性、協調性といった社会的・対人的態度の形成、および学級内の望ましい人間関係育成のための具体的方策について論じる。また、進路指導の問題や同和教育についてもふれる。

【講義計画】

- 生徒指導の意義と課題
- 生徒指導の原理 (生徒指導の基礎としての人間観・自己指導の助成のための方法原理・集団指導の方法原理・援助や指導の仕方に関する原理・組織や運営の原理)
- 青年期の心理と生徒指導 (青年期の意義・青年期の心理的特質・適応と精神的健康)
- 生徒理解 (生徒理解の考え方・生徒理解のための資料・生徒理解の留意点)
- 生徒指導と教育課程
- 学校における生徒指導体制
- 教育相談 (教育相談の方法・教育相談の限界と他機関との連絡)
- 生徒指導と学級担任の教師
- 学校における非行対策
- 生徒指導と社会環境
- 同和教育

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 別途指示する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|----------------|-----|-----|------------|------------|-------|
| 09345 09346 | 教科外指導論 (a)・(b) | 随 | 3 | 各2 | 後期 | 荻原克巳 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 | 不可 |

【講義内容】 教育活動以外の特別諸活動の意義や目標についてふれ、自主的・実践的な社会的態度の育成や望ましい人間関係の在り方、そのためのグループ活動の方法や配慮等について具体的に解説する。

- 【講義計画】
- 特別活動の目標
 - 特別活動の基本的な性格（特別活動の教育的意義・特別活動の内容相互の関連・特別活動と各教科や道徳等との関連）
 - 学級活動（学級活動の特質・活動内容・指導計画の作成・指導上の留意事項）
 - 生徒会活動（生徒会活動の特質・活動内容・指導上の留意事項）
 - クラブ活動（クラブ活動の特質・活動内容・指導上の留意事項）
 - 学校行事（学校行事の特質・活動内容・指導上の留意事項）
 - 特別活動の授業時数
 - 入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取扱い
 - 特別活動の指導を担当する教師
 - 障害者教育（特殊教育）

【評価方法】 期末テストにより評価するが、出席も重視する。

【テキスト】 文部省編『中学校指導書—特別活動編—』

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|------------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 09351 09355 | 英語科教育法 A(a)・B(a) | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 田 中 春 美 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 教授対象となる英語を、それが使われる状況と言語研究からの知見を背景として、再確認した上で、英語教育に関わる重要な要因（学習者・教師・教育環境など）、4技能の指導、教材、教授法、視聴覚機器、カリキュラム作成、評価などについて考える。文部省の学習指導要領についても触れる予定。

- 【講義計画】
- 準国際語としての英語
 - 学校における英語教育
 - 教授法の概観
 - 4技能の本質と指導
 - 学習指導要領
 - 視聴覚機器とCAI/CALL
 - 非言語伝達（身振りなど）の重要性
 - 評価とテスト
 - 学習者の要因 など。

【評価方法】 前後期の定期試験のほか、レポート、出席状況などを考慮して、総合的に評価する。なお、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多(S)」による不合格とする。

【テキスト】 畑中孝實・久松 豊『最新英語科教育法』（成美堂）¥2,000

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|------------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 09352 09356 | 英語科教育法 A(b)・B(b) | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 松 本 青 也 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 可 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 今や英語は国際共通語とさえ言われ、極めて便利で、何をするにも不可欠な言語とされている。しかし「英語教育」を考えるとき、英語の効果的な教育方法を考えるだけで終わってはならない。日本人にとって「英語」がどんな意味を持っているのか、そして学校「教育」の中で、それはどんな内容を期待されるのかまでを含めて考える必要がある。受験科目の一つとしてほとんど無意識に学んできた「英語」を、今度は教える立場から、しげしげと眺めてみたいものである。

- 【講義計画】
- 〈前期〉
1～3：目的論：問題提起
コミュニケーション能力 学習指導要領
学校英語教育の目標。国際理解

4～7：技能論：4 技能
 8～14：方法論：
 教授法の歴史（日本、外国）
 外国語教授理論。新しい教授法
 指導過程の構成

〈後期〉
 1～4：授業評価（観察と討議）
 5～13：教授法演習（実演と討議）
 14：まとめ：これからの英語教育

【評価方法】 前期：テスト（小論文を含む）
 後期：教案作成、授業、及びレポート
 なお、欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多（S）」による不合格とする。

【テキスト】 松村幹男監修『英語科教育の理論と実践〈理論編〉』（現代教育社）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|----------------|-----------------|----|----|-------|----------|-------|----|--|
| 09353 09357 | 英語科教育法A（C）、B（C） | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 松 永 隆 | | |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 | |

【講義計画】 英語のスキルを、listenig・speaking・reading・writing の順番で取り上げ具体的な指導方法や言語活動の組み立てかたを、講義と演習形式で学んでいきます。教授法や学習理論などの理論的な学習で終わることなく、ビデオなどを活用し具体的な指導技術を学び、できる限り現場の教師になったつもりで、模擬授業を数回行ってもらいます。この際、新学習指導要領も参照しながら、中学・高校の英語教育の現状と問題点、英語教師に求められているものは何かを考えてほしいと思います。

【講義計画】 講義では、教材論、教授理論、教育評価をテーマとして取り上げます。演習形式においては、たとえ5分の言語活動でも、工夫して作成するのに相当な時間とエネルギーが必要とされること、創意・工夫の重要性を体験できるような教科教育法を心掛けていきたいと思ひます。

【評価方法】 教案作成の課題、前期・後期レポート、出席を総合的に評価します。

【テキスト】 未定。参考図書、1回目の講義で発表します。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 | | |
|----------------|--------------|----|----|-------|----------|-------|----|--|
| 09361 09362 | フランス語科教育法A・B | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 練 尾 毅 | | |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 | 不可 | |

【講義内容】 教える者の立場から、(a) フランス語の音、文法、語彙、(b) 話し言葉、書き言葉、読解力、(c) 教授法、教材、教育機器について考える。

【講義計画】

1. 音と意味
2. 音と文字
3. 文法
4. 語と意味
5. 語彙と文法
6. 話し言葉
7. 話すことと書くこと
8. 読むこと
9. 教授法
10. 教材
11. 教育機器
12. 授業計画

【評価方法】 出席と定期試験により総合的に評価する。

【テキスト】 (1)中村啓佑、長谷川富子、『フランス語をどのように教えるか』、駿河台出版社、1995、3,200円。
 (2) Dominique JENNEPIN et al., *Café crème 1 : méthode de français*. Paris : Hachette, 1997. 75F.
 (約1,650円)

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|--------------|-----|-----|------------|------------|---------|
| 09365 09366 | ドイツ語科教育法 A・B | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 林 田 雄 二 |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 | 不可 |

【講義内容】 外国語教育一般の問題を考えることから出発し、一つの外国であるドイツ語をどのように教えるかということを考えて行きたい。
 ドイツ語の教職をとる人ばかりではなく、外国語教育全般について興味のある人の参加を望みます。

【講義計画】 前期は討論型式で行われる。
 テーマ：200X年、ついに格安の夢の高性能、超小型通訳機が発売された。それは、我々が母語で話す内容を、また相手が話す外国語を、SF映画で見るように、内容から、声、表現の特性に至るまで正確に通訳してくれる器械である。果してそのような時代に、義務教育としての外国語教育は必要か？
 これについての議論を出発点にして、外国語教育の問題、可能性、意義を考えて行きたい。
 後期は、様々な外国語教育法を紹介し、日本におけるドイツ語教育にどの程度利用できるか、ドイツ語教育の現状を見ながら具体的に考えて行きたい。最後には独文科一年生のクラスを使い、教育実習を考えている。

【評価方法】 学期末テストより、講義への積極的な参加姿勢を評価する。

【テキスト】 その都度、プリントを配布する。

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|----------------|-----|-----|------------|----------|---------------|
| 09371 09372 | イスパニア語科教育法 A・B | 随意 | 3 | 各2 | 前期 後期 | A. Cárdenas |
| 他の科目 との関連 | | | | 他学科 履 修 | 不可 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 DIDACTICA DEL ESPAÑOL COMO LENGUA EXTRANJERA A. B

【講義内容】 Estos dos cursos son una introducción al estudio de la didáctica de las lenguas extranjeras. Aunque las clases teórico-prácticas se enfocan a la enseñanza del español, el contenido y las experiencias obtenidas en estos cursos son aplicables a la enseñanza de otros idiomas extranjeros en Japón. Los temas a tratar son los siguientes :

【講義計画】

1. El proceso de enseñanza y aprendizaje de un idioma extranjero
2. Análisis crítico de los principales enfoques y métodos
3. La enseñanza del vocabulario
4. La enseñanza de la gramática
5. La enseñanza de la pronunciación
6. La enseñanza de las funciones comunicativas
7. La enseñanza de la comprensión y la expresión orales
8. La enseñanza de la comprensión y la expresión escrita
9. La integración de las diferentes habilidades lingüísticas
10. La programación y planificación de clases
11. La corrección
12. El uso de los materiales audiovisuales
13. Análisis y elaboración de materiales
14. La evaluación

La evaluación final se basa en la asistencia y participación activa en las clases y en la realización

de tareas y proyectos a lo largo del curso.

【評価方法】 欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えた場合、当該授業科目の成績を「欠席過多(S)」による不合格とする。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-----------------|----|----|-------|------|------|
| 09375 | 国語科教育法A | 随 | 3 | 2 | 前期 | 武山隆昭 |
| 他の科目との関連 | 国語科教育法Bの履修前提科目。 | | | 他学科履修 | 重複履修 | 不可 |

【副題】 国語科教育法概論

【講義内容】 国語科教育の基盤から説き起こし、国語科教育の歴史、現行学習指導要領の解説をした後、単元学習の組織、学習指導法、評価の理論及び方法、教材論について講じ、学習指導案の書き方をマスターさせる。

【講義計画】 序章 国語科教育の基盤……国語科教育とは、制度上の基盤、言語観、目標、特質について講じる。
第一章 国語科教育の史的展望……明治以後の国語科教育の歴史を、国定教科書、戦後の指導要領改訂の歴史等を取り上げ解説する。
第二章 現行学習指導要領について……平成元年告示の小・中・高学習指導要領について、改訂のねらい・特徴、構成などを講ずる。
第三章 単元学習…指導計画策定の根幹理論である単元学習の組織等について詳述する。
第四章 学習指導法……学習者の構成形態、学習指導の方法、板書の仕方、ノート指導の方法等について具体的に講述する。
第五章 国語科における評価……評価の目的・時期・方法等について講じる。
第六章 学習指導案の書き方……指導案作成の意義、種類、形式について講じた後、実際に一つの教材を取り上げ指導案を書かせる。
第七章 国語科の教材……望ましい教材、教科書の位置付け、教科書検定の実態(教科書制度の問題点)について論ずる。

【評価方法】 学習指導案を作成し、レポートとして提出する。レポートと出席点とで評価する。

【テキスト】 目下編集集中(最初の時間に実費販売)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-------------------|----|----|-------|------|------|
| 09376 | 国語科教育法B | 随 | 3 | 2 | 後期 | 武山隆昭 |
| 他の科目との関連 | 国語科教育法Aの履修を前提とする。 | | | 他学科履修 | 重複履修 | 不可 |

【副題】 国語科教育法各論

【講義内容】 前期の概論を踏まえて、学習指導要領に示されている、「A表現」・「B理解」・「言語事項」の各領域について、具体的に教材を取り上げながら指導方法を述べ、教育学等新しい指導理論にも触れる。

【講義計画】 第八章 「A表現=話すこと」の指導
第九章 「A表現=書くこと」の指導——作文指導を中心に——
第十章 「B理解=読むこと」の指導(1)総論 {含：読むことの代表的指導理論紹介}
第十一章 「B理解=読むこと」の指導(2)説明的文章の読解指導
第十二章 「B理解=読むこと」の指導(3)文学的文章の鑑賞指導 {小説・詩短歌俳句・古文・漢文}
第十三章 [言語事項]の指導 {文法・語彙・音韻・文字・方言}
第十四章 教育学と国語科教育 {含：視聴覚教育、プログラム学習}
* 模擬授業……教育実習の事前指導として1～2名に実施してもらう。

【評価方法】 前期・後期両方の講義内容を範囲とし、筆記テストを実施する。出席重視。模擬授業をした人には良い点をあげる。

【テキスト】 国語科教育法Aと同じ。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|------------------|----|----|-------|----------|---------|
| 09381 09382 | 宗教科教育法A・B | 随 | 3 | 各2 | 前期 後期 | 西 経 一 |
| 他の科目との関連 | AとBは同一年度に履修すること。 | | | 他学科履修 | 可 | 重複履修 不可 |

【副題】 教育現場における宗教教育の実践

【講義内容】 中学生、高校生を対象とする、聖書を用いた宗教教育の具体的実践例をもとに、宗教教育について考える。

- 【講義計画】
1. 信仰者としての宗教教育担当者の教育姿勢
 2. 宗教教育の観点から見た中学生・高校生
 3. 正典としての聖書と教材としての聖書
 4. 聖書を教材とした教育実践例の紹介
 5. 聖書を教材とした授業教案作成の方法
 6. 聖書以外の教材および宗教行事への取り組み

【評価方法】 レポートおよび発表による。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------|----|----|-------|----|---------|
| 09386 | 社会科教育法 | 随 | 3 | 2 | 集中 | 加 藤 瑛 二 |
| 他の科目との関連 | | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【副題】 社会科教育の発達

【講義内容】 社会科を指導するためには社会科の特質について理解しなければならない。日本の社会科の変遷と本質に迫る必要がある。社会科をどのように教えるかも同時に考察の対象となる。教材資料の扱い方や授業の構造分析も教師に課せられた重要な課題である。現場の授業を念頭におき社会科全般にわたる基礎的学習の把握を目標とし、その理論的分野について学習する。

- 【講義計画】 本講義は社会科教師にとって必須の内容を含むが、限られた時間内で全領域をカバーすること困難であり、以下のような項目を中心にして学習を展開する。
- ①社会科とはなにか
 - ②社会科の発達過程
 - ③USA の社会科
 - ④ヨーロッパの近代の社会観
 - ⑤学習指導要領の変遷
 - ⑥各分野別の学習指導
 - ⑦社会科の資料・教材
 - ⑧学習指導案
 - ⑨社会科の授業等について学習するものとする

【評価方法】 小テスト・試験・平常の活動等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】 中学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|----------|-----|-----|-----|------------|---------------|
| 09391 | 地理歴史科教育法 | 随 | 3 | 2 | 前期 | 加藤 瑛二 |
| 他の科目との関連 | 社会科教育法 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 地理歴史授業の実践

【講義内容】 高校教育における地理・日本史・世界史分野の全域を網羅するためには、きわめて多くの知識の蓄積が要求される。本講義は地理歴史の授業に参加するための実践的課題を探索することを意図し、学生諸君自らが積極的に行動することを期待する。各教科毎に模擬授業を展開しながら質疑・応答・講評等を組み合わせて講義を進めてゆく。目標は地理歴史の授業研究の確立である。

【講義計画】 ①地理歴史科教育の内容、学習指導要領における指導上の留意点について学習する。
②地理の授業研究
③日本史の授業研究
④世界史の授業研究
授業研究は模擬授業の形式で学習していく。学生諸君は各教科より任意の項目を選定して授業用の発表資料を作成すること。また、学生指導案を作成して提出することを義務づけておく。

【評価方法】 発表・応答・学習指導案・平常の活動・レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】 高等学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------|--------|-----|-----|-----|------------|---------------|
| 09395 | 公民科教育法 | 随 | 3 | 2 | 後期 | 加藤 瑛二 |
| 他の科目との関連 | 社会科教育法 | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 不可 |

【副 題】 公民科の授業の実践

【講義内容】 高校教育における公民科は倫理・政治経済・現代社会を含んでおり、広範囲な知識を要求される。本講義は公民科の授業に参加するための実践的な課題を追及する。各教科毎に模擬授業を展開しながら、質疑・応答・講評等を組み合わせて講義を進めていく。目標とするところは公民科の授業研究の確立であり、現場教育に近接するための授業研究を目指す。

【講義計画】 ①高校公民科教育の内容、学習指導要領における指導上の留意点について学習する。
②現代社会の授業研究
③倫理の授業研究
④政治経済の授業研究
授業研究は模擬授業の形式で学習していく。学生諸君は各教科より任意の項目を選択して授業用の発表資料を作成すること。また、学習指導案を作製し、提出することを義務づけておく。

【評価方法】 学習指導案・発表・応答・平常の活動・レポートの提出等、総合的に判断して評価する。

【テキスト】 高等学校学習指導要領 平成元年 文部省 大蔵省印刷局

| 科目コード | 科 目 名 | 指 定 | 年 次 | 単 位 | 期 間 | 担 当 者 |
|----------------|------------|-----|-----|-----|------------|---------------|
| 09401 09402 | 商業科教育法 A・B | 随 | 3 | 各2 | 集中 | 大倉 芳雄 |
| 他の科目との関連 | | | | | 他学科 履 修 | 重 複 履 修 不可 |

【講義内容】 教育職員免許法により高等学校教諭の普通免許状を取得するための教職に関する専門科目のうち、商

業科教育法に関連する科目では、以下のような教科指導の基本を学習する。

1. 学習指導要領と商業教育
 - (1)商業教育の歴史
 - (2)学習指導要領の性格及び構成
 - (3)商業の目標・組織・学科
2. 各科目の内容とねらい
商業経済科目群 簿記会計科目群 情報処理科目群 総合学習科目群
3. 教育課程の編成
4. 指導計画の作製と内容の取扱い
年間指導計画、学習指導案の作製
5. 学習指導と評価
 - (1)学習指導の一般原則
 - (2)学習指導の形態と方法
 - (3)商業教科の評価
6. 商業高校における進路指導の視点
7. 資格取得指導の現状と課題
8. 商業教育の将来について

【講義計画】 教科指導の技術だけでなく、実務としての担任業務や部活動指導等商業科教員として望ましいキャリアの形成に役立つ内容にしたい。また、商業教育の当面する課題や将来展望についても触れ、幅広く商業教育を理解できるよう努めたい。

【評価方法】 学習指導案の作成、課題レポートの提出、質疑応答等により総合的に評価する。欠席時数が授業科目の授業予定総時数の3分の1を超えると、履修成績評価は「欠席過多（S）」による不合格とする。

【テキスト】 雲英道夫著『商業科教育法』（多賀出版）

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------------------|----|----|-------|------------|--------------|
| 09405 09406 | 数学科教育法A・B | 随 | 3 | 各2 | 前期 夏期集中 | 春藤修二 浜島清治 |
| 他の科目との関連 | 全学共通科目「数学B」を履修していることが望ましい。 | | | 他学科履修 | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 前期の「教育法A」では専任教員により、数学という教科に関する基本的な考え方、数学教育の歴史等について講義する。
夏期集中の「教育法B」では高校の数学教育に実際に携わる教員により、実践指導を含めた教科内容についての授業を行なう。

【評価方法】 レポートを提出してもらう予定。

【テキスト】 特になし。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|------------------------------------|----|-----|-------|----------|------|
| 09501 09506 | 博物館学Ⅰ・Ⅱ | 随 | 1～3 | 各2 | 前期 後期 | 早川正一 |
| 他の科目との関連 | 博物館学Ⅲ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論 | | | 他学科履修 | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 大学において学芸員の資格の取得を目指す者は、文部省令で定められた「博物館に関する科目」を修得し、卒業を条件とする(博物館法第5条)。そのうち、博物館学は基幹となる必修科目の一つであり(施行規則第1条)、履修計画の初期に受講する事がのぞましい。

この講義は、博物館に類する諸施設の現代的意義を根本から把握し、理解させるために先進的な欧米の博物館事業に関する実態を検討する事からはじめ、それらの影響下に独自の発展をしてきた日本の博物館と、昨今の我国における多様な博物館活動や博覧会の開催にも言及して、博物館の機能の基礎概要を培いたい。

【講義計画】 博物館は現代の生涯学習や社会教育に関連して、まさに日進月歩の状況にあり、講義の焦点も年ごとに異なるが、主な計画事項は下記の通りである。新設された「博物館学Ⅲ」の講義が各論の内容となる

ので、「博物館学Ⅰ・Ⅱ」は次の5項目を総論として幅広く講述する。
 (Ⅰ) 博物館学を受講するためのイントロダクション
 (Ⅱ) 博物館の出現と発達の足跡、そしてその世界史的意義
 (Ⅲ) 博物館と博覧会との関係および現代的課題
 (Ⅳ) 博物館の役割と運営、研究と普及への活動の問題
 (Ⅴ) 博物館資料に関する展示、保存、収集の基本と文化財保護の側面

【評価方法】 資格にかかわる講義であるから、試験を厳格に実施する。早朝からの講義であるが、担当者にとって遅刻は実に迷惑する。出欠席の状況とともに成績に反映させるので注意されたい。履修規程第16条を厳守し、毎回、出欠席を点検する。欠席過多者は期末試験を受けさせない。

【テキスト】 未定

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|--------------------------------------|----|-----|-------|----|---------|
| 09508 | 博物館学Ⅲ | 随 | 1～3 | 2 | 後期 | 小池 富雄 |
| 他の科目との関連 | 博物館学Ⅰ・Ⅱ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論 | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【副題】 実践的立場からの人文系博物館の資料論及び経営論

【講義内容】 博物館学Ⅰ及び同Ⅱを受けて、博物館資料の活用や博物館経営の実際と理論を国内外の人文系博物館や古美術館の実例に即して述べる。
 近年10年間で日本の博物館の総数は倍増したが、展示内容や活動に問題を抱える館は多い。建物は出来たが内容的魅力に乏しい、との批判も多い。問題の発生原因は、単に博物館側にのみあるのではなく、高度余暇社会に移行しつつある日本社会の構造にある。有効対策の一つとして博物館の中で活躍する人材、つまり優れた学芸員の育成が社会の要請となってきている。博物館の現場で働く者として受講の諸君と共に博物館と学芸員の活動の将来を考えたい。

【講義計画】

1. 博物館資料の収集 A 寄贈 B 寄託 C 購入の実際
2. 博物館資料の保管と整理 分類と台帳カタログ作成
3. 博物館資料の保管と整理 排架と保存
4. 博物館資料の保存と修復 絵画・書籍及び複製製作
5. 博物館資料の保存と修復 工芸品(陶磁器・染織等)
6. 博物館資料の展示と立案 照明・空調等解説ラベル
7. 博物館資料の輸送と梱包 借用、貸与の心構えまで
8. 博物館資料の調査研究 意義・方法・目的
9. 博物館経営の行財政制度
10. 博物館経営の組織設備論 海外や国内公私立の例
11. 博物館経営の教育普及と広報活動 意義と目的
12. 博物館経営の友の会とボランティア活動 意義・事例

【評価方法】 各自の実地見学によるレポート。テーマ及び論じるべきポイントについては講義の中で指定する。なお、不必要な欠席を慎むのは、学芸員資格をめざす者として当然である。

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------------|----------------------------------|----|-----|-------|----|---------|
| 09511 09512 | 博物館実習(a)・(b) | 随 | 2～4 | 各3 | 通年 | 重松 和男 |
| 他の科目との関連 | 博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育原論A、視聴覚教育メディア論、生涯学習論 | | | 他学科履修 | | 重複履修 不可 |

【授業内容】 人類学博物館(G棟地下)で行う。資料整理・目録の作成・展示改善・写真・解説パネル作成などの作業を進めながら、博物館学芸員としての、仕事の内容に理解を深める。実習であって、講義ではないので積極的かつまじめに取組むことが必要である。受講態度に問題がある場合は、中途であっても放棄させることもある。

実習に伴い博物館見学旅行(1泊2日程度、交通費、宿泊費など各自負担)を実施し、義務づけている。
 各クラスとも40人を越えた場合には、受け入れられない可能性があるため下記に注意して欲しい。

登録時の人数によっては変更を認めること或いは変更を指示することがある。

- 【授業計画】 (a) 木曜3、4限 4年次生を優先。2・3年次生も可。
(b) 木曜5、6限 3年次生を優先する。4年次生不可。2年次生可。

【評価方法】 平常点。出席は極めて重視。(欠席、遅刻は規定通りであるが、3回以上欠席し、かつ指示に従ってその埋め合わせを行わないときは、Fをつける。)

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|----------------------------------|-------|-----|----|------|------|
| 09516 | 生涯学習論 | 随 | 1~4 | 2 | 前期 | 高橋英次 |
| 他の科目との関連 | 博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博物館実習、教育原論A、視聴覚教育メディア論 | 他学科履修 | | | 重複履修 | 不可 |

【副題】 生涯学習施設としての博物館

【講義内容】 博物館は図書館などならんで社会教育・生涯教育の典型的な施設であるが、近年は従来の枠を大きく踏み越え、資料の収集保存や調査研究といった博物館の基本機能にくわえて、市民参加性、観光化、アミューズメント性への傾斜などの多様化・娯楽化の傾向が著しい。映像や電子テクノロジーの導入によって総合的な情報伝達機能を充実させ、能動的活動を展開するなど社会的役割を変貌させつつある。

【講義計画】 特異な対象テーマや領域など、かつてないひろがりを見せている「博物館」の現況を展望し、空間メディアによる主題表現の方法、学習や娯楽への利用の様態、情報サービスや人的ネットワークの拡大など社会教育にはたす役割について、各地事例の映像記録を中心に検討する。あわせて博覧会やエキシビジョンなどは先端的展示技術の開発機会であり、文化史的エポックを画するメモリアルでもある文化イベントの意義について考察する。なお、学外授業を実施する予定である。

【評価方法】 事例紹介と、空間メディアの活用によるテーマ表現の方法、情報伝達の技術についての学習をふまえ、自身で博物館施設、エキシビジョンなどを調査取材し、簡潔にデータシートにまとめる作業を通じて、社会教育施設のありかたやその活動についてどのように理解し、あるいは提案的意見を提示できるかを評価する。なお、出欠席の状況も評価に加えるので、注意すること。

【テキスト】 広瀬 鎮編『比較文化研究の世界』(学術図書出版社) 予価¥2,060

| 科目コード | 科目名 | 指定 | 年次 | 単位 | 期間 | 担当者 |
|----------|-----------------------------|-------|-----|----|------|------|
| 09521 | 視聴覚教育メディア論 | 随 | 1~4 | 2 | 集中 | 高桑康雄 |
| 他の科目との関連 | 博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、博物館実習、教育原論A、生涯学習論 | 他学科履修 | | | 重複履修 | 不可 |

【講義内容】 現代における生涯学習の重要性に視点を向け、現代社会の一特徴である視聴覚メディアの意義を考えるとともに、それが生涯学習のための一手段として、どのように活用されるべきかを論ずる。
したがって、昨今の発達した視聴覚メディアは博物館や美術館における展示のあり方や普及の諸活動と密接に関連をもつわけであり、その基本だけでなく応用の面も講述して理解を促す。

【講義計画】 集中講義の大部分は、適切なビデオテープの映写、OHP装置の操作などを併用して講義をすすめる。それに加えて、講義の理解と応用を深めるため、放送局、視聴覚ライブラリー、関連する博物館などを訪問して学外授業とする。なお、学外授業の予定は上記の大学での講義中に発表し、当日の交通費、昼食費、入館料は各自の負担とする。

【評価方法】 大学内での講義および学外授業の出欠席の状況の評価し、レポートを提出させる。レポートのテーマは講義の際に与える。

【テキスト】 未定